

第4回滋野地区地域づくり推進検討会議 議事録

開催日時：平成23年12月14日（水） 午後7時から午後8時30分

場 所：滋野コミュニティセンター

出席者：滋野地区活性化研究委員会会長 吉田 周平

副会長 荻原 利幸

部会長 丸山 克寿、高藤 征紀

滋野地区青少年育成協議会会長 後藤 富美男

滋野小学校PTA会長 山辺 修

滋野地区分館長会長 阿倍 欣史

道の駅駅長 唐澤 光章

保健補導員会滋野地区会長 小川原 敬子

滋野保育園保護者会長 若林 賜美

消防団第2分団長 唐澤 茂幸

赤岩区長 平井 征治、片羽区長 下條 貞昭、桜井区長 土屋 昌光

滋野地区区長会長（大石区長） 関 勝人、中屋敷区長 若林 常夫

別府区長 内田 仁、聖区長 上野 利文、乙女平区長 佐野 恭二

原口区長 小河原 實

（以上20名出席）

【アドバイザー】長野大学 佐藤教授、山崎講師

【事務局】寺島企画課長、小菅補佐、織田

1. あいさつ（企画課長）

1月に役員が改選される団体があると思う。役員が改選が行なわれる団体については、今までの経過、取組内容等を次期役員の方に引き継ぎをいただき、継続性を持たせた検討会議としていきたい。

2. 滋野地区のガイドブックについて

前回の会議で、ガイドブックの進捗状況を説明することとなっていたため、滋野地区活性化研究委員会 吉田会長より次のとおり説明があった。

●滋野地区ガイドブック進捗状況

編集委員会を昨年9月から9回開催し、写真や資料等を収集した。各区からも委員を推薦してもらい、小学生高学年にもわかるように作成中である。滋野地区の歴史の全体像、各区から出された「誇れるもの」（歴史的なもの、祭り、重要だと考えるもの）について、写真を中心に掲載予定である。また、資料（地図・年表）や地道な公民館活動なども含め、滋野地区の全体が第三者にも把握できるものを作成する。なお、来年度の県元気づくり支援金事業に応募する予定である。

3. 滋野地区の地域資源等の意見交換

前回会議の確認（佐藤教授）

- ・ 組織を構築することが目的ではない。やりたいことがあるから人が集まり、その結果として組織が出来上がれば良い。（組織を創ろうという話ではない。）
- ・ 組織を構築する場合は、地域の意見を受け止めることができる組織とすることが重要である。特に女性や若年層の意見を受け止められるかが重要である。
- ・ 滋野地区では、たいへん魅力的な取り組みが行なわれていると感じるが、果たしてどの位の人が興味を示しているのか不安な要素もある。
- ・ 多くの地域住民が魅力を感じ、参加したくなるものを見つけ出すことが重要である。
- ・ 問題が少ない良い地域だと感じるが、もっと良い地域にしたいということの本気で考えていくことも大切である。
- ・ まずは、地域資源を改めて見直し、きっかけを見つけ出すことが重要である。

滋野地区で誇れるもの	課題等
<p>★食文化</p> <p>【くるみ】：クルミ料理コンテスト・・・日本クルミ会議主催のクルミ祭りで開催。昨年に比べて料理の質が上がった。料理とお菓子とケーキが一緒になると審査しにくいので、今年は料理とお菓子部門に分けた。残念ながら昔からの料理が少なかった。</p> <p>食生活改善グループが作成したクルミや巨峰の料理集があるので、それと同じものはなかったということで、昔の料理が少なかったのではないか。</p> <p>昔、クルミをすり鉢で擦って、砂糖を入れてもち米をちよっと入れて「半殺し」・・・半分突くから「半殺し」・・・「隣知らず」・・・道の駅で売っている・・・キナコも使える ⇒ 子どもたちと一緒に、小学校で作っているもち米を使って「半殺し」をやってみる</p> <p>※この地域で昔から食べていた物等は、地域の人が魅力を感じるのではないか。</p> <p>※印象に残るネーミングも大切。</p> <p>※子供達を如何に巻き込むかが大切である。子供達が興味を持つ案件となる可能性がある。また、子供達への文化</p>	<p>・すでに商品化されて、子供たちもよく知って食べている。</p> <p>・子供達に作り方を教え、食べるイベントが考えられる。</p>

<p>の継承という面でも役立つのではないか。 ※若い世代が忘れていた地域の食文化を、改めて若い人に引き継いでいくという位置付けもできる。</p> <p>【おやき】： 囲炉裏に放り込んでお焼きをつくる・・・酸っぱくなった野沢菜・・・ 囲炉裏の灰の中でつくる・・・うどんの残りでお焼きを作っていた・・・子供たちに楽しんでもらえる 蕎麦で作るお焼き（饅頭）・・・蕎麦がき・・・クルミを組み合わせる・・・地粉がある・・・ 成立そば</p> <p>※蕎麦はどこにでもあるが、この地域の重要文化である「くるみ」と地域の特産品を合わせることにより、くるみの楽しみ方が様々出てくるのではないか。</p> <p>※「滋野の粉もの」・・・滋野の粉料理とくるみシリーズ・・・ 成立遺跡とも関連する・・・遺跡の近くで囲炉裏をつくってあれこれ楽しむ</p> <p>【ほうとう】： 冬至の時期の「かぼちゃほうとう」「あずきほうとう」甘みをつける・みそ味・・・「農林 27 号の小麦粉なら食べてみたい」・・・ほうとうは茹で溢さなくてよいから早くできる・・・つみれ（すいとん）もうまい・・・「そばすい」・・・ 農林 27 号は八重原地区にあるかも</p> <p>※滋野地区の粉文化は、驚くほどのレパートリーがある。</p> <p>【うすやき】： そば粉、小麦粉を溶いてフライパンで薄く焼いてニラなどの野菜を入れる・・・「こねつけ」 ご飯を手のひらでもんで薄く焼く</p> <p>※フランス料理のガレットに似ている。滋野ガレットというネーミングにすることも面白い。</p> <p>平成 13 年ごろ、大田区のお祭りで成立そばを販売・・・余ったそば粉で「うすやき」を作ったら、珍しさがあり飛ぶように売れた</p>	<p>⇒ 小学生が作っている米を使うことも考えられる。(学校との連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しさではインパクトが欠ける。 ・衛生上の問題がある。 ・ 囲炉裏が手に入らない。 ・昔ながらの生活の知恵を実感できるイベントも考えられる。 ・ほうとうの打ち手がいなくなり、最近ではあまり食べない。 ・昔この地域で栽培していた農林 27 号入手可能か ・農林 27 号を復活させることに繋げることも考えられる。 ・「こねつけ」は、上田で地域起こしの一環として実践されている。
--	--

★遊び

・ヒバリの巣を探して育てた・・・見つけがいがある・・・卵があったら、そこだけ麦を刈らない・・・段々畑で巣を探した・・・モズやカラスも捕まえた

・地蜂とり・・・クロスズメバチ・・・巣をとってきて自分のうちで飼う・・・カエルかトンボの胸肉を餌にハチを寄せる・・・ハチがお尻を3回かければ飛んでいく・・・昔の遊びの地図をつくる？

・遊びの復活・・・「石けり」・・・「釘とおし」・・・女性の遊び・・・お手玉の歌があった・・・歌の歌詞を記録すると楽しい・・・孫に教え歌教える・・・お手玉教えているグループから聞く・・・学校から帰ると「艦長水雷」・・・村中の子どもが駅に集まって駅で遊んだ。滋野駅は貯木場・・・木材の上で遊んでいた

自分たちのおじいさんの話を聞くと、雷電の力石を使ったカ比ベ・・・その後は戦時色が強くなる・・・遊びの歴史を調べるとおもしろい

観音堂にあった36貫の石・・・雷電の時代からずっとあった・・・昔はそこで飲んでカ比ベをしていた・・・道の駅に運んだ・・・昔はあちこちで石をつかってカ比ベをしていた

※地域の中にあつた楽しいことが、地域の宝物である。記録に残し、披露することが大切である。

★イベントなど（地域の方にさまざまな活動を紹介する機会）

・毎年10月の「滋野地区ふれあいの集い」（作品展・イベント・トン汁など）でやる・・・こういう時に組み込んでやれたらおもしろい

・8月の最後の週の日曜日・・・魚つかみ・・・八幡池の御前水で、ニジマスつかみをやっている・・・粉もの、くるみを一緒に取り組む

・5月3日4日雷電祭り・・・小学生の相撲大会・・・道の駅に土俵がある・・・学校が力を入れている・・・滋野小学校の校長先生は女性・・・土俵に上がって挨拶してくれた・・・学年ごとに競技・・・優勝すると御幣がもらえる・・・毎年100人ぐらいが集まる・・・女子の部もある・・・相撲はいつもやっていた・・・土俵のおはらい・・・相撲甚句・・・東御市全体の子どもが集まる・・・広域発信

・昔の遊びの地図を作れないか

・お手玉の歌を知っている人がいなくなった。

・お手玉の歌の歌詞を探す。

・ふれあいの集いへの子供の参加が少ない。

・子供たちに人気がある。

・さらに多くの機会を探す。

※滋野地区では、様々な面白いことが起こっている。一つのきっかけで、いろんな事が起こる可能性を秘めて地域である。小学校区単位で動いて行ける可能性が十分に感じる。

【次回は】

文化財より身近な地域の誇り（農産物、遊びなど）等を、もう一度洗い出したい。

4. その他

特になし

5. 閉 会（企画課長）

- ・次回、再度地域の素材の洗い出しをお願いしたい。
- ・継続性を持たせた会議とするため、役員改選が予定されている団体は、今までの経過や取り組みについて引き継ぎをお願いしたい。
- ・今後も地域の皆さんの意見を聞き、地域の皆さんと一緒に地域づくりについて考えていきたい。